令和５年度
千早赤阪村立学校
評価報告書

学校名（千早赤阪村立中学校）
校長名（　近藤　和浩　）

１．教育目標

『たしかな学力をつける ゆたかな心を養う すこやかな体を育てる』

めざす学校像　豊かな自然と少人数指導でのびのびと過ごせる学校
めざす生徒像　思いやりの心を持ち、探求心と表現する意欲のある生徒
めざす教師像　生徒とふれあい、前向きで健全に生徒を導く教師

２．経営方針

本年度重点目標

「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」

授業の「めあて」「ふりかえり」を意識して、１時間での学びに気づく授業。
思考・表現を大切にする授業。生徒の挙手発言を促し、主体的に学ぼうとする姿勢を育む授業。
そんな授業を目指すとともに、テストの点数にもこだわり学力向上を目指す。

「支援教育の充実」

支援学級在籍生徒の抜き出し授業を進めていくにあたり、学校全体で支援学級在籍生徒がより良く学習内容の理解が進むように取り組んでいく。

「道徳教育の発表に向けて土台を作る」令和7年度に大阪府中学校道徳教育研究会の近畿大会発表があたっていることから、今年度より3年間で学校全体の道徳教育の充実を図る。今年度はその1年目として、道徳授業の基礎基本を大切にして授業力を養う。「考え議論する道徳」を進められるように、授業内の工夫等について研究を進める。

３． 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅰ 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	・千赤スタンダード【考える・書く・伝える】を各授業で取り入れることによって、記述式問題の無回答を減らす。また、コミュニケーションスキルを身につける。【学力向上】 ・4 技能をバランスよく育むための学習や活動を積極的に取り入れる。【英語科】 ・ALT と連携し、異文化に触れ、知る機会を設ける。【英語科】 ・デジタルシティズンシップに則り、生徒の自主自立を促すため、必要に応じて適切に ICT 機器を扱う力を養う。【ICT】 ・情報交換を密にし、一人ひとりの特性に応じた課題への対処や、支援の充実を学校全体で目指す。また、専門性の向上を目指し、研修等を実施し、家庭や地域、各関係機関との連携を深める。【支援教育推進委員会】
D	具体的な取り組み内容	・各教科や授業の中で、記述の課題やコミュニケーション能力を育成する課題を入れるよう教師に伝達。【学力向上】 ・LSWの向上を意識した。小テストには英作文を入れ、リスニングテストを頻繁に行った。ALT との授業はオールイングリッシュで行い、人とのやりとりを増やした。【英語科】 ・ALTの授業で Small Talk として、自国の文化を紹介してもらった。委員会との連携では、English Camp を行い、異文化に触れる機会を設けた。【英語科】 ・行事や委員会活動など、授業以外の場面でも ICT を効果的に活用することができた。【ICT】 ・支援教育推進委員会の充実（一人ひとりの課題の把握と校内での共有）と、障がい者理解を図る研修の実施【支援教育推進委員会】
C	自己評価／成果と課題	・全国学テや大阪府のチャレンジテストの結果を見ていると記述問題の無回答率は下がり、学力の向上が見られた。【学力向上】 ・定期テストなどにおいてのリスニングの得点率は良好。クラスルームイングリッシュも前向きに使っている姿が見られる。どの学年もやり取りに関しては積極的である。【英語科】 ・新しい文化、初めて知ることを、抵抗なく、興味をもって受け入れているように思われる。【英語科】 ・生徒の ICT 機器の取り扱いについては問題ないが、機器の老朽化や経年劣化による故障・トラブルが多く見られた。また、授業での ICT の効果的な活用方法などを、教職員間であまり共有することができなかった。【ICT】 ・一人ひとりの課題（支援学級及び通級指導教室への在籍について、本人・保護者の意向を尊重し、複数回確認）へ、対処した。懸案であった支援を要する生徒への配慮（定期テスト問題のルビ打ち）について、学校全体で共有した。専門性の向上を目指した研修は外部研修を伝達した。【支援教育推進委員会】
A	次年度に向けて	・千赤中の３年間で記述力やコミュニケーション力が向上するよう、今年度の取り組みを来年度以降も続けることを各教科担当に提案をする。【学力向上】 ・ペーパーテストに加えて、パフォーマンステストの回数も増やして、4 技能の評価の方法を充実させたい。【英語科】 ・異文化に触れた上で、自国の文化を見つめ直し、それを英語で発信できるような活動につなげていきたい。【英語科】 ・会議書類のペーパーレス化など、SDGsも意識しつつ業務を効率化できるような取り組みを行う。また授業での ICT の活用方法について、形骸化しないように啓蒙活動を行っていく。【ICT】 ・校内での研修がここ数年実施できていないので、次年度は実施する必要がある。【支援教育推進委員会】

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	・キャリアパスポートを活用して自己を見つめるとともに、継続的に進路学習を行って計画的に卒業後の進路や将来に向けて考える機会を持ち、自己実現につなげる。【キャリア教育担当】 ・道徳科では、各学年で年間の計画を作成し、22の価値項目を計画的に実施し、自己を見つめ内面的成長を促す時間になるよう授業計画を考える。【研修部】 ・2年前にリニューアルした人権学習計画の3年目として、各学年の重点人権課題を中心に、広く深く人権を学ぶ計画を作る。特に、生徒が当事者の目線に立った学習ができるよう計画する。【研修部】 ・体力・運動能力向上のため、デンマーク体操を年間通して継続して行う。スポーツテストを実施する【体育科】 ・教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れる。【食育担当】 ・生徒が興味関心を持ち、理解と関心をもつことのできる学習内容を考える。【郷土学習担当（教頭）】
D	具体的な取り組み内容	・キャリアパスポートを活用して定期的に成長を振り返る機会を持った。また進路学習、学年の行事、その他学校の教育活動全体でキャリア教育的視点を意識した。【キャリア教育担当】 ・道徳の実施記録を取ることによって、価値項目に偏りがないようにする。【研修部】 ・デンマーク体操の年間継続しての実施。スポーツテストの実施（5 月）。【体育科】 ・教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習を行った。美術科の教諭が茶道体験と樹脂粘土でお茶菓子作成をする際、養護教諭・栄養教諭も関わって授業を充実させた。【食育担当】 ・村教委と連携し、生徒の発達段階に適した郷土学習授業を実施する。【郷土学習担当】
C	自己評価／成果と課題	・学校全体として年5回のキャリアパスポートは定着しており、内容も状況を見て微修正できている。小中の情報交換の内容なども、職員間で情報共有することができた。【キャリア教育担当】 ・実施記録を 3 学年で作成した結果、22の価値項目をまんべんなく網羅することができ、生徒たちにとっても様々な面から自己を見つめる授業をすることが出来た。【研修部】 ・デンマーク体操を年間通じて行うことでの体力向上の成果は見られた。課題として、年々夏場の気温が異常に高くなってきている為、実施の有無を検討する必要がある。スポーツテストは教員の協力の上で無事に終了できた。課題は機器の老朽化があげられる。【体育科】 ・食育について、教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、様々な立場の関わりから食育を行うことができた。【食育担当】 ・昨年度以上に、生徒の実態や関心意欲に沿った外部講師による郷土学の授業が実施できた。【郷土学習担当】
A	次年度に向けて	・今後も小学校や教育委員会とも情報交換をしながら、キャリアパスポートをうまく活用して、キャリア教育を進めていく。【キャリア教育担当】 ・次年度は、教師に向けた道徳科の研修を行うことで、授業力の向上を目指し、今年度以上に生徒の内面的成長をうながせるような道徳科の授業になるようにする。【研修部】 ・来年度も引き続きこの計画を実施する。夏季のデンマーク体操実施について検討が必要。スポーツテストは引き続き実施したい。機器の購入を検討したい。【体育科】 ・来年度も味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れる。【食育担当】 ・実施年度の反省を次年度に繋ぎ、質の高い郷土学の授業を実施していく。【郷土学習担当】

3．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり（3-1 安心安全な学校づくりの推進）
P	重点目標	・「自信と意欲を持った集団、支え合える仲間づくり」 ～みんなが生き生きと元気な、活気ある学校に～【生徒指導部】 基本方針 ○学ぶ喜びを見つける生徒 ・規則正しく、正義の通る集団　・一人ひとりの良さが集団の中で発揮できる ○思いやるやさしさを身に付けた生徒 ・お互いの個性を認め合い尊重しあえるような集団　・他の人への気配りができる ○弾むたくましさにあふれる生徒 ・あいさつができる　・行事等に全力で取り組むことができる ・校内破損・修繕個所を把握し、いち早く原状復帰を目指す。【（学校施設）教頭】 ・通学中の生徒が事故に遭わない為、通学環境の整備と生徒への安全教育を行う。【（通学）教頭】 ・災害時における「自助・共助・公助」の三助を担える中学生の育成を目指す。【防災教育（教頭）】 ・食物アレルギーのある生徒を学校全体で把握し、誤食を防ぐ。 ・栄養教諭・養護教諭と連携し、職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を、千早赤阪村全体研修と兼ねて行う。【養護教諭】
D	具体的な取り組み内容	・教育相談（学期に1回）　・環境整備・安全点検（学期に1回）・クリーンキャンペーン（12月実施）　・登下校指導（学期に3回）・避難訓練（学期に1回）　・薬物乱用・犯罪防止教室（7月実施）・生徒指導内容の校内研修　・交通安全教室（4月実施）・校内生徒指導連絡会（週に1回）　・支援教育推進委員会（月に1回）・千早赤阪村立小中学校生活指導連絡協議会（月に1回）　・生徒会活動・委員会活動 ・隔月の安全点検の実施と村教委への修繕依頼【（学校施設）教頭】 ・交通安全教室開催と PTA 等と連携した安全指導の実施【（通学）教頭】 ・避難訓練の際、防災や三助についてのDVD視聴と防災アドバイザーからその重要性の講評を受ける。【防災教育（教頭）】 ・職員会議で食物アレルギーのある生徒を周知した。職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を、千早赤阪村全体研修と兼ねて行った。【養護教諭】
C	自己評価／成果と課題	・SC や SSW から生徒と対応するうえでアドバイスをいただき、それを活用することができた。 ・適応指導教室の存在が学校としては非常に助けられた。不登校生にとっての居場所が作れたことが一番大きい。 ・村小中生活指導連絡会での情報が、中学校でも兄弟関係から対応できることが多かった。 ・環境整備・安全点検における修復の実現が出来ないことが多かった。 ・校則の改定。 ・老朽化した施設の破損個所は多いが、村教委の早急な対応により修繕できた。【（学校施設）教頭】 ・入学式後 1 年生保護者への説明や PTA だよりを通し、家庭での安全指導について依頼し、交通安全教室を開催し、生徒への安全教育を行った。【（通学）教頭】 ・村教委・防災アドバイザー派遣事業や DVD を効果的に活用し、生徒の発達段階にあった指導ができた。【防災教育（教頭）】 ・職員を対象とした食物アレルギーに関する研修は、村教育委員会・栄養教諭と連携し、外部講師も呼んで例年とは違う形で行うことができた。【養護教諭】
A	次年度に向けて	・SC や SSW との連携を密に測りながら、各関係諸機関や小学校の先生も含め情報交換を行い対応していく。また、SC や SSW や CSW や社会福祉士が生徒指導の定例会や情報交換の場に参席してもらえるようになると、より幅を持った対応が行える。 ・くすのきルームとの連携は継続しながらも、くすのきルームと中学校の交流をより強めていく。具体には、中学校の教員がくすのきルームに顔を出すことから始め、窓口になれればよいと考えている。 ・小中加配の先生（理科・音楽）が、生徒指導に積極的に携わっていただけると、小中との情報交換が図りやすいケースもあり、中学校では見えない部分や背景などが分かり、解決の糸口に繋がるようなこともある。 ・登下校指導や地域の巡回の回数を増やして定期的に実施する。 ・制服の移行期間に対する対応。 ・頭髪指導の難しさ。 ・優先順位を明確にして、村教委へ修繕を依頼すると共に、自力でできるものは積極的に修繕する。【（学校施設）教頭】 ・家庭へ通学時の安全について共通理解を図り、交通安全教室を開催することで生徒の通学中の生徒が事故に遭わない為、通学環境の整備と生徒への安全教育を行う。【（通学）教頭】 ・防災アドバイザーからの指導講評を参考に、防災・三助について指導内容を高める。【防災教育（教頭）】 ・来年度も、食物アレルギーに関する研修を行う。【養護教諭】

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり（3-2 学校および教職員の資質向上）
P	重点目標	・学校評価に関しては、PDCA サイクルを意識して全教職員で作成していく。【校長】 ・「わかりやすい授業」を目指し、教材の視覚的支援を考え生徒への配布プリントは、UD フォントを基本として作成するよう全教職員に依頼した。【研修部】 ・千赤スタンダード「考える・書く・伝える」を効果的に取り入れるための研修会を実施し、教職員の授業力向上を目指す。【研修部】 ・働き方改革を進めていく中で、今年度は特に部活動指導について改善を進める。勤務時間内での部活動指導の在り方を教職員の意見を聴きながら進めていく。【校長】 ・地域に開かれた学校を目指し、地域の人々とのかかわりを進めていく。また、PTA 活動については昨年度の改革を継続し、PTA 会員の負担を減らし、役員をすることはできないという者に無理矢理役員を押し付けることが無いように役員選出を行う。【校長】 ・教職員の不祥事防止、ハラスメント防止のために、職朝や職員会議で日頃より啓発する。【校長】
D	具体的な取り組み内容	・PDCA の P を年度当初に立てて、DCA を年度末に記入した。【校長】 ・全職員に授業プリントや配布プリントの「UD フォント」の使用をお願いし、実際に実行してもらった。【研修部】 ・今年度3回の研究授業と相互授業参観を実施し、他の教師が実践している授業方法を学べるよう取り組んだ。【研修部】 ・部活動指導の在り方について、他市町村の様子等を聞きながら、職員にアンケートを取ったり、教育委員会にも設置者としての対応を尋ねた。【校長】 ・PTA 活動について、役員会や実行委員会で決まった体育大会での PTA 種目を実施することができた。【校長】 ・職員会議や長期休業前の職員打ち合わせの前に不祥事防止の啓発を行った。【校長】
C	自己評価／成果と課題	・PDCA を意識しながら、次年度にほんの少しでも改善していければよい。【校長】 ・フォントが統一されたことによって、生徒にとって「わかりやすい授業」になり、視覚支援ができていた。【研修部】 ・互いの教師が実践している良い授業方法を見ることによって、それぞれの授業力が向上し、千赤スタンダードが掲げる能力の育成につなげることが出来た。 ・部活動指導の在り方について、生徒指導部が次年度の方向性を示せた。【校長】 ・PTA については、役員等になりたくないという人は多い。無理強いしないという方針で、なってもかまわない方に依頼し、次年度役員もスムーズに決定することができた。【校長】 ・教職員の不祥事防止への意識は、以前よりもあるように感じるが、まだまだ不十分であるように感じられるときもある。今後も啓発は続ける必要がある。【校長】
A	次年度に向けて	・今後も PDCA を意識した学校評価を学校全体で進める。【校長】 ・今年度実施したことを来年度も引き続き実践できるよう教職員に伝達する。【研修部】 ・来年度も引き続き、研究授業と相互参観を行い、現状の授業力で満足することなく、より一層向上させていくよう計画する。【研修部】 ・今後の部活動指導の在り方について、継続して検討を重ねていく。【校長】 ・次年度以降も PTA の役員の決め方は今のままで進める。PTA 会費も必要最小限にしたことと、生徒数の減少で、今後はできることも限られてくるようになると思う。しばらくしたら、また在り方を考えていかなくてはならないと思う。【校長】 ・一人一人の意識付けが大切である。次年度以降も職員会議の折には資料等を用意して啓発を図っていく。【校長】

４．教育自己評価

【教職員による自己評価】

教職員による自己評価で高かったのは、「生徒が生き生きと学ぶことができる学級、学校づくりに取り組んでいる」「学校行事が生徒にとって魅力あるものになるように工夫改善している」の２項目が最も高く、学校行事等を通じて楽しく過ごせる学級学校づくりを行っていることがわかる。
次に、「生徒会活動が、主体的な活動になるように学校全体で支援している」「部活動の活性化に努力している」「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるように進路指導を行っている」の項目が高かった。それらのことから、生徒主体の学校づくりは概ね自己評価できていると思われる。

次に、自己評価で低かった項目は「本校の教育活動について、教職員間は理解している」「教育活動全般にわたり、評価を行い次年度の計画に生かしている」「各教科で指導目標を明確にし、指導方法の工夫改善に努めている」「人権尊重に関する様々な課題について、年間計画に基づき、継続的に指導している」である。このことから、各教科の授業や教科指導の内容について不十分なところがあるという認識があること、人権教育等について計画立てて実施することについても不十分であるということを教職員が自覚していることがうかがえる。これらについて、今後課題意識をもって取り組みを進める必要がある。その次には「教職員は服務規律についての自覚が高く、法的順守に心がけている」「生徒指導において、家庭と緊密な連携ができている」の項目も低い値を示した。服務規律や生徒指導等の在り方については、まだまだ不十分であることも自覚しており、今後も引き続き改善していく必要がある。

【保護者による評価】（学校教育アンケート結果より）

アンケート結果から「学校行事を楽しみにしている」「子どもに関するプライバシー（個人情報）が守られている」「子どもたちに将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」「評価に関して適切な情報提供を行っている」「命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」という項目の評価が高かった。「学校行事」を楽しみにしているという項目が増えたことは、やはりコロナ禍等で行事に制限がかかっていた頃に比べて、充実してきたのではないかと考えられる。

それから、生徒のプライバシーを尊重し、将来の進路や職業について、適切な指導を行っている事、評価への情報提供や命を大切にする心を育てようとしていると評価して頂けていることもわかった。

反対に、評価が低かったものは、「子どもは、授業がわかりやすいといっている」「学校の施設・設備は、学習環境面において整っている」の２つ。「授業がわかりやすい」という項目については、昨年度よりも更に肯定的数値が下がった。昨年度から引き続き、学校全体での重点目標として「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」を掲げて、授業改善にむけて教職員研修を進めて取り組んできたが、わかりやすい授業の実現にはまだまだ課題があるようだ。施設設備について、運動場の法面がけ崩れの修繕を来年度実施予定。トイレの改修については、村に毎年要望しているが改修されず学校としても残念。

【生徒による評価】（学校教育アンケート結果より）

アンケート結果で高かった項目は、「中学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」「いのちの大切さや社会のルールについて、学ぶ機会が多い」「人権の大切さについて、学ぶ機会が多い」の４つです。中学校へ行くのが楽しい。学校行事は楽しい。と思ってくれていることは大変うれしく思う。学校行事では、教科学習では学ぶことができない達成感や一体感が得られるのでこれからも学校行事を大切にしていきたい。「いのちの大切さ」「人権の大切さ」の項目がすごく増えたことに関して、今年度学校全体や各学年でそういった内容の学習に取り組んできたことが、しっかりと生徒に伝わっている事が結果に反映されたのではないかと考えられる。

次に評価が低かった項目は「生徒会活動（委員会活動）に関心をもって、積極的に参加している」「授業中、積極的に挙手したり、発言したりしている」「破損個所はすぐに修理され、快適に生活できる環境になっている」の３つである。生徒会活動（委員会活動）について、肯定的数値が下がったことに驚いた。本校は生徒会活動や委員会活動をしっかりと行っていると思っていたが、積極的に参加しているものと参加していない者の２極化が進んでいるのかもしれない。挙手発言の項目は、なかなか高くはならない。授業を観に行くと積極的に挙手発言をしている人が一定数見られる。「わかりやすく楽しい授業が多い」「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業が多い」という項目も少ないため、今後は授業内容の見直しをすすめ、考えをまとめたり発表するような授業をすすめ、学力向上を目指していきたい。

5．学校関係者評価

学校評議員会議よりいただいた主な意見
【1学期】
①令和５年度学校評価報告書について
・現在の進学制度を考えると、テストの点数にこだわる学力向上は必要であるが、将来生きる力の育成を考えると、思考・表現の力の育成等にも取り組んでいただきたい。
・英語教育について小学校の英語学習内容等も比較検討し、小中一貫した英語教育のシラバスを充実していってもらいたい。
・一方的に伝えるのではなく、生徒参加型の学習を増やし、考える力をつけていってほしい。
・教師と生徒の距離が近く先生に何でも話しやすい環境になっていると思う。
②部活動の地域移行について
・一気に移行するのは難しいと思うが、地域人材の活用という視点で部活動指導の改善につなぐ方法の検討が一つの方策ではないか。
・地域の人の専門知識を教えてもらうことによって、世代間でのつながりができて村の活性化にもつながると思う。
・先生方の時間外を考えると、地域に頼ることも考えていく方が良い。
③学校行事について、その他
・体育大会のプログラムについて、競技的な種目が少ないと感じる。
・学校行事がなくなっていき、色々な経験が少なくなってしまうのは残念。しかし、学校行事に参加できない保護者がいたり、協力できない事情があるのも事実。その都度、保護者の意見を聴きとり行うように対応する。
・PTA 活動の多くが縮小されているが、保護者はそれほど負担に感じていない。学校と家庭の距離が離れていくように感じる。
・PTA 活動等について、学級懇談で説明するような機会をもう少し作ってもいいかなと思う

【2学期】
①中学校における学校地域支援本部の様なものの設置について
・学校教育活動への支援、応援という意味では、学校のニーズが主体であると思う。教職員がその趣旨を充分に理解した上での組織づくりが大切。
・学校のニーズを充分理解した取組みは、一気に広げるよりも一つずつ支援活動を学校主体で模索していく方が良いと思う。
・花ボランティアがあればいいですね。地域住民が学校を支援することで、連携協力でいろんな知識や経験を生かす場が広がる。
②部活動の活動時間や地域移行について
・学校に外部指導者として来ていただくか、生徒たちが地域クラブに出向くのかで課題は多少変わってくると思います。
・村体育協会とのつながりをもたれてはいかがでしょうか？
・村だけの問題ではなく、市町村合同で考えていかないと難しく思います。
③学校行事等について、他
・行事は学ぶべき内容とともに、取り組む過程において、人として成長する部分が大切だと思います。だから行事へ取り組む意義を明確にした上での精選が必要だと思います。
・マラソンや金剛山への関わり（ゴミ拾いや登山など）など、村の自然の大切さを学ぶ、触れる機会があるといいと思います。
・職業体験や大阪探索は卒業して何年も経つ今でも子どもが話したりします。とても良い経験になっていると思う。
・生徒の立場に立って考え、寄り添っていただける先生方が多く、大変心強く感じています。思春期真っただ中の子どもたちで、何かとご指導も大変でしょうが、今後も支援、応援という視点を大切にしていただくことを願います。

【3学期】

日程調整がつかず文書開催の為、後日記載します。

6．第三者評価

本校は、「教職員」「保護者」「生徒」「学校評議員」以外の第三者評価は実施していない。